



武庫川河口部で浚渫工事始まる



浚渫工事現地説明板



南部橋左岸道路との接続部で杭打ち始まる



仁川合流部掘削工事、既設床止め工が現れた



宝生ゲ丘付近から生瀬橋を望む



生瀬橋右岸 鉄筋挿入工事

武庫川最河口部の浚渫工事が始まり、河口～生瀬間の各所で一斉に河床掘削が始まったことになる。拡幅・堤防・護岸工事が一段落し、流系全体として計画流量確保できるようになるのだろう。これまでは部分的な工事で環境への影響も限られていたが、連続した河床掘削が広範囲で大規模に及ぶようになり、環境への影響は避けられないと思うが、環境二原則を遵守して施工されているのか、事前のアセスメントと施工後の評価を可能にするモニタリングなど息の長い取り組みが行われるのか、見守っていきたい。工事現場や工事後の川ぞい視察を鋭意実施していても、私の力量では、安全と環境が調和した川づくりが行われているのか、大がかりな工事後の風景に接するにつけ、時間の経過と共に自然環境が復活するのか、問題を抱えたまま経過するのか想像もつかない。川守に出来ることは、施工前の状態を保存し、施工中は環境に配慮した工事が行われているのか、施工後は、施工前より良くなったのか悪くなったのか、良くなっても、悪くなっても何が良かったのか、なにが悪かったのか評価出来るような記録を残し、次の改修工事に活かして欲しい。アユ遡上時期までには大規模河床掘削は一段落すると思われるが、河床掘削がアユ遡上に与える影響に注目したい。河口部の浚渫は水面下のことで目視できないが回遊魚にとっては相当大きな環境変化だろう。

